

【小学校用】

新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症の治療をする医師や看護師、病院で働く人、社会機能が止まらないように働く人、新型コロナウイルス感染症にかかった人や回復した人、これらの人たちの家族等の尊厳を傷つける行為について多くの報道がなされています。このような偏見や差別につながる行為は断じて許されないものです。また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷もあってはなりません。

新型コロナウイルス感染症の問題に直面している今こそ、自分の人権も他の人の人権も大切にする行動について一人一人が考え、実践しましょう。

偏見や差別による感染症拡大のメカニズム

偏見や差別が広がると、「感染したかも」と思った人が、それをかくすようになり、結果として感染症の拡大につながる。

新型
コロナウイルス
感染症

この新しいウイルスは分からないことが多く、まだワクチンもできていないため、不安な気持ちになる。さらにうわさ話やSNSの情報などで不安が大きくなる。

偏見
差別

不安

不安な気持ちが怖いという気持ちになり、考える力や正しく判断する力が弱くなる。ウイルスを遠ざけたい気持ちから、特定の人たちを「危険」と見なして、責めたり排除したりすることで安心しようとする。

問題解決のために、わたしたちに何ができるでしょうか。

みんなの人権を守る行動が感染症拡大も防ぎます。

▶ 不安な気持ちに向き合しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、他の感染症に比べて分からないことが多く、だれでも不安な気持ちになります。さらに、メディアなどから得た情報によって、その不安が大きくなったり、怖いという気持ちに変化したりすることもあります。

大切なのは、その不安な気持ちをそのままにしないことです。自分の好きなことをする、好きな音楽を聴いたりリラックスするものにふれたりするなど、不安を小さくする方法を見つけましょう。信頼できる大人に自分の気持ちを聞いてもらうのもいいでしょう。

▶ 偏見や差別につながる行為は絶対にやめましょう。

新型コロナウイルス感染症は症状のない人もいますから、どこで、だれから感染したかは分からない場合も多く、だれでもかかる可能性があります。感染した本人を責めることはできません。

特定の人たちを科学的根拠もなく責めたり排除したりすることは偏見や差別につながります。絶対にやめましょう。

うわさや思いこみではなく、公的機関の信頼できる情報をもとに行動することが重要です。また、感染者やその家族、医療関係者等の状況や思いを自分のこととして考えることも大切です。

▶ インターネット上の情報に注意して、情報を発信する行為に責任を持ちましょう。

インターネット上には不確かな情報が数多くあります。そのような情報やうわさ話を信じて身のまわりの人に言いふらす、SNSで発信したり拡散したりする行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷など、人権を侵害することにつながりかねません。

情報を発信する自分の行為に責任を持ちましょう。

監修：中央大学人文科学研究所客員研究員 高橋聡美（「心と命のサポート事業」講師）

発行 岡山県教育庁人権教育課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号

TEL 086-226-7612 FAX 086-224-2134

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/153/>